

[花き部門]

3. ブプレウラムの出芽促進技術

[要約]

ブプレウラムは種子の湿潤低温処理（2℃ 20日間）を行い、最大容水量の低い育苗土を用いて播種後約3日間を無灌水で管理し、その後に充分灌水すると出芽率が向上する。

[担当] 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 技術

[背景・ねらい]

ブプレウラムの栽培では種子の出芽不良による成苗率の低下が問題となっている。この原因として播種後の土壤水分量が多いと出芽率が低下することが明らかとなっている。そこで、実用的な出芽促進技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 種子を流水下で一晩吸水させ、湿潤状態のまま2℃で20日間低温処理（以下、湿潤低温処理）を行った後に播種すると、無処理に比べて出芽が早くなり、定植可能な健全苗の率も高くなる（図1）。
2. 種子の湿潤低温処理の有無に関わらず、最大容水量の低い育苗土ほど奇形苗が減って、健全苗率が高くなり、出芽揃いも良好である（表1、2）。
3. 種子の湿潤低温処理を行った直後の種子を含水率約25%の育苗土に播種し、播種から3日間無灌水とした後に灌水すると出芽が早くなり、出芽率も高くなる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 育苗土は含水率25%程度に調整して用い、播種後は含水率が極端に低下しないように被覆等の対策を行う。
2. 発芽適温は15～20℃であり、播種後の気温が低いと発芽勢は低下する。
3. 夏期高温時に採種した発芽率の高い種子を用いる。

[具体的データ]

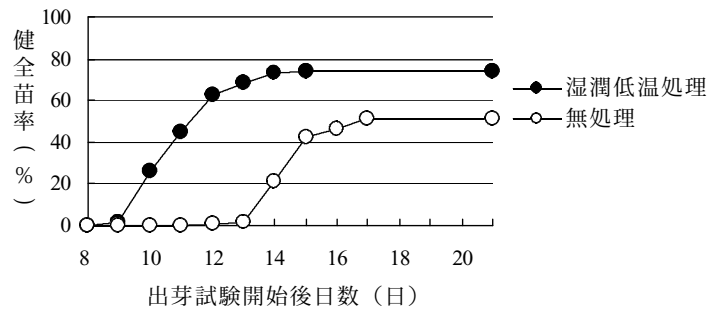


図1 種子の湿潤低温処理が健全苗率^zに及ぼす影響 (2℃20日間処理)

^z子葉が完全に展開した苗 (出芽苗-奇形苗)

表1 育苗土の物理性

育苗土	三相分布 ^z			仮比重	最大 ^y 容水量 (ml)
	固相 (%)	液相 (%)	気相 (%)		
クレハ園芸培土	30.9	11.7	57.4	0.78	8.3
愛菜2号	31.3	13.5	55.1	0.70	10.3
与作N150	15.8	18.0	66.2	0.26	28.0
メトロミックス350	11.1	12.2	76.7	0.12	60.1

^z育苗土開封時、^y乾土10g当たり

表2 育苗土と湿潤低温処理が発芽率と健全苗率 (%) に及ぼす影響

育苗土	湿潤低温処理有		湿潤低温処理無	
	出芽率	健全苗率 ^z	出芽率	健全苗率
クレハ園芸培土	92.5	92.5 a ^x	87.5	86.3 a
愛菜2号	86.3	80.0 a	73.8	57.5 ab
与作N150	70.0	42.5 b	71.3	41.3 ab
メトロミックス350	86.3	33.8 b	60.0	28.8 b

図1に同じ、^y*:分散分析で有意差あり、^x同一英文字間に有意差なし (Tukey法5%)

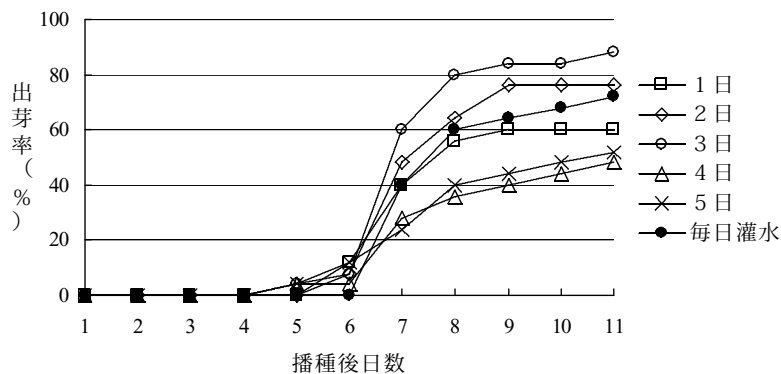


図2 播種後の無灌水期間が出芽率に及ぼす影響 (育苗土:愛菜2号)

[その他]

研究課題名: プレウラムのスムーズな生育促進技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2006 ~ 2008 年度

研究担当者: 土居典秀、中島 拓

関連情報等: 1)平成14年度試験研究主要成果、63-64

2)平成18年度試験研究主要成果、75-76